

## シンクロナイズドスケート競技会運営 まとめ

(SPECIAL REGULATIONS & TECHNICAL RULES SYNCHRONIZED SKATING 2018 から抜粋し、日本語訳してまとめたもの)

### 【目次】

①非公式練習・・・ P 1

②公式練習・・・ P 1

③試合の流れ・・・ P 2

(滑走時間・ウォームアップ時間・スケーターのための呼び出し・一般的な計時のガイドライン)

④Referee's Assistant at Ice Level (レフェリーズアシスタント) について・・・ P 4

⑤転倒、中断について —参考資料—・・・ P 5

(転倒と中断・競技中の氷上のアクシデント・中断、音楽の不具合、不完全な演技)

### ① 非公式練習

(ISU シンクロ・レフェリーハンドブック 2018-19 P15 参照)

(地方大会での実施は任意)

- ・非公式練習は抽選の前にしてもよい
- ・練習は 15 分間であるべきであり、どのリンクで実施してもよい
- ・整氷は 4 チームごとに入れるべきである
- ・チームは各自が選んだ音楽を使用してよい。練習するプログラムは自由 (ISU Championships は除く)
- ・OC はチームの到着時刻を考慮し、非公式練習のスケジュールを決める

### ② 公式練習

(ルール第 830 条/ISU シンクロ・レフェリーハンドブック 2018-19 P15 参照)

(地方大会での実施は任意)

- ・公式練習の時間 (SP:10 分間 FS : 12 分間)
- ・公式練習では音楽は中断無しで 2 回再生される。音楽は練習時間の開始 1 分半のところで 1 回目をかける。2 回目は SP なら 6 分のところ、FS なら 7 分のところでかける。
- ・音楽が再生される 30 秒前にアナウンスを入れる

- ・コーチもチームのメンバーも10分間または12分間の公式練習中に音楽系の近くに立ち、指示をしてはならない。
- ・公式練習の時間中は、他の音楽は流れない
- ・SPでは6チーム以下、FSでは5チーム以下のグループにし、間に整氷を入れず続けて滑る。グループのチーム数はできるだけ均等にする
- ・抽選で決まった滑走順で公式練習を行う
- ・チームはチームの名前がアナウンスされたら練習のため氷上に入ってよく、直前に練習していたチームは氷上から出ることを求められる。直前に練習していたチームは練習の時間が終わったらただちに氷から出なければならない。

練習時間の計測はチームの名前がアナウンスされたらすぐに開始する

#### ◎練習時間の実例（※シニアのFSの場合）

（ISU シンクロ・レフェリーハンドブック 2018-19 P16 参照）

・氷上に入る	0 : 00
・1回目の曲かけの30秒前のアナウンス	1 : 00
・1回目の曲かけ	1 : 30
・演技終了	6 : 10
・2回目の曲かけの30秒前のアナウンス	6 : 30
・2回目の曲かけ	7 : 00
・演技終了	11 : 40
・氷上から出る	12 : 00

### ③ 試合の流れ

#### 滑走時間について

（ルール第952条／ISU シンクロ・レフェリーハンドブック 2018-19 P17 参照）

滑走時間はスケーターが動き始めるか、滑走し始めた時から、プログラムの最後に完全に停止したときまで、計測しなければならない。

1. SP シニアおよびジュニア：2分50秒以内
  - a) 2分50秒より後に開始された要素は採点されない
  - b) チームは時間内にSPを終了できない場合、5秒を超えるごとにトータルスコアから減点

が与えられる（ルール第 843 条第 1 項 n）

2. F S :

a)シニア：4 分

b)ジュニア：3 分 3 0 秒

c)ノービス：3 分

F S は規定時間の ± 1 0 秒以内に終了すればよい。許された時間の範囲内に FS を終了できなかった場合、5 秒までごとの過不足につき規定の減点を与えられる（ルール第 843 条第 1 項 n）

規定時間（+ 1 0 秒）以降に開始された要素は、テクニカル・パネルから採点されず、従って無価値となる。プログラムが規定時間範囲より 3 0 秒以上短かった場合、得点は与えられない。これらの減点は、ルール第 965 条第 5 項には適用されない

### ウォームアップ時間

（ルール第 964 条／ISU シンクロ・レフェリーハンドブック 2018-19 P18 参照）

1. 整氷と整氷の間のグループのチームの最大数はルール第 980.981.982 条、参照

（S P は 6 チーム、F S は 5 チーム）

a)SP と FS：各チームは、チームがスタートのための呼び出し（下記参照）をされる前に、最低でも 1 分間のウォームアップが許可される（1 つ前のチームのジャッジングタイム中に流れている音楽の部分を除いて）

b)チームは SP、FS のどちらでも、（演技が終わって）氷から出るのに 3 0 秒以上かけてはならない

c)グループの最初に滑るチームはスタートのための呼び出しをされる前に 1 分間のウォームアップ時間が与えられる

2. 予期せぬ事態によって、競技が 10 分以上中断された場合、チームは 2 回目のウォームアップが与えられる

3. 第 963 条第 2 項 e の 1 つまたは 2 つの同順位のチームを同じグループに含める場合、ウォームアップの最大許容チーム数を 1 チームまでは超えてよい、しかし最大許容チーム数を 2 チーム以上超える場合、そのグループは別々にウォームアップする 2 つのサブグループに分割する

4. シンクロでは整氷を入れるタイミングは SP では 6 チーム後に、FS では 5 チーム後に行うのが推奨される。整氷のグループ分けは第 980.981.982 条に基づく。

## Call to Start スタートのための呼び出し

(ルール第 838 条/ISU シンクロ・レフェリーハンドブック 2018-19 P18 参照)

1. 各演技に先立ち、これから競技を行うチームの名前を氷上およびチームの更衣室ではっきりと呼び出さなければならない
2. アナウンスメントに先立ち、次に滑るチームはレフェリーズアシスタントの合図でウォームアップのために氷上に入らなければならない。最低 1 分間のウォームアップの後、チームはアナウンスされる
3. チームは使用しているチームの名前をアナウンスされる。
4. チームはチーム名を呼ばれてから 30 秒以内に競技の当該競技部分 (SP や FS) における開始の姿勢を取り、レフェリーに合図をしなければならない。この時間が経過しても開始の姿勢が取られていない場合、レフェリーは第 843 条第 1 項, n に定める減点を適用しなければならない (最終得点から減点する)。スタートのための呼び出しから 60 秒が経過しても開始の姿勢が取られていない場合、そのチームは棄権したものとみなされる

## 一般的な計時のガイドライン

(ISU シンクロ・レフェリーハンドブック 2018-19 P18 参照)

ウォームアップの 1 分間の計時は、チームの最後のスケーターが氷上に入ったところから計測する

## | | |--| | ④ Referee's Assistant at Ice Level (レフェリーズアシスタント) について | |--|

(ISU シンクロ・レフェリーハンドブック 2018-19 P7 参照)

大会主催者はレフェリーズアシスタントを一人指定し、リンクの入り口の近くに配置しなければならない。(国際大会や全国大会の場合)

※地方大会ではドア係で対応可

## レフェリーズアシスタントの役割：

(第 816 条)

・チームがウォームアップで氷上に入るのを許可する (競技を行うスケーターが正しいことを確認する)

- ・リンクサイドやキスアンドクライにすることが可能な、チームの認められている補欠の人数（最大4人）を確認する。
- ・氷のコンディションを耐えず監視し、レフェリーへ問題点を報告する
- ・スケーターにとって危険な氷上にある物体を拾うために、登録されている補欠を氷上に入れることを指示する
- ・レフェリーズアシスタントはチームの演技中にジャッジをすることやノートは取らず、安全の理由のために、チームに細心の注意を向けなければならない

競技中（演技中）、異物またはコスチュームの一部が氷上に落下した場合、レフェリーズアシスタントはその物体を拾うために、登録されている補欠を氷上に入れることを指示してよい。そのチームの補欠のうち、少なくとも1人は氷上の入り口の近くに立っているべきである。チームに補欠がいなければ主催者が指定したスケーターを使う。

#### ⑤ 転倒、中断について   －参考資料－

（ルール第953条・第965条／ISU シンクロ・レフェリーハンドブック 2018-19 P12-14 参照）

#### Falls and Interruptions   転倒と中断

##### （第953条）

1. 転倒は、スケーターがコントロールを失い、その結果、体重の過半が身体のブレード以外の部分、たとえば片手または両手、片膝または両膝、背、片尻または両尻、腕の一部によって氷上に支えられた状態と定義する。転倒には、1回ごとに減点が与えられる（第843条第1項n）参照）

2. 中断とは、スケーターが演技をやめた瞬間から再開した瞬間までの時間である。10秒を超える中断には、毎回、減点が与えられる（第843条第1項n）参照）。中断が40秒を超えて続いた場合、レフェリーが音で合図し、そのチームは棄権となる。中断の原因がスケーターと関係のない条件である場合、あるいは、スケーターの健康や機器に関連するものである場合は、第965条の規定に従う。

## 競技中の氷上のアクシデント (Accidents on the ice During the Competition)

・競技中にスケーターに重大なアクシデントが発生し、氷上に血が残った場合

→どう対処するのかはレフェリー、レフェリーズアシスタント、コーチ/チームリーダーの間で伝達する。(Communication No.2049 On Ice Medical Emergencies 参照すること)

→演技の再スタートはせず、そのチームは補欠のスケーターを入れた後、レフェリーによって確認された中断地点から演技を再開する

→レフェリーは要素の採点を配慮し、演技の継続をジャッジに知らせ、音楽係に時間を伝える。(適切であれば、観客に短く放送を入れてもよい)

## 中断、音楽の不具合、不完全な演技 (Interruptions, Music Deficiencies and Incomplete Programs)

### (第 965 条)

1. 音楽のテンポあるいは質が不完全であり、チームのキャプテンにより、レフェリーに対してその旨がプログラム開始 30 秒以内伝えられた場合、チームはプログラムの最初から再滑走してもよい。

2. 音楽の中断あるいは停止、またはチームのスケーターの装備に無関係な条件（たとえば照明、氷質など）が起こった場合、チームはレフェリーの合図により、演技中のどの時間であつても、滑走を止めなければならない。

レフェリーが合図によって滑走を止めさせない場合は、チームのキャプテンは音楽の不具合をレフェリーに知らせるべきである。(演技開始から 30 秒後の出来事でも)

チームの残りのスケーターたちはレフェリーの合図で停止を命じられるまで、滑走し続けなければならない。

キャプテンがチームから離れてレフェリーに相談すること、またはレフェリーが演技を停止することによるペナルティは適用されない。

チームはその問題が解消され次第、ただちにその音楽が中断した箇所から滑走を続けるものとする。

ただし、中断が 10 分を超えて続いた場合、第 964 条 2 項に従い、2 回目のウォームアップの時間が与えられるものとする。

3. 演技中にスケーターが負傷したり、スケーターあるいはスケーターの用具に関連した不運な条件（たとえば健康上の問題や衣服や器具への予期せぬ損傷など）によって滑走が妨げ

られたりした場合、スケーターは滑走を止め、(可能であれば) そのスケーターまたはキャプテンがレフェリーに報告しなければならない。

チームの残りのスケーターたちはレフェリーの合図で停止を命じられるまで、滑走し続けなければならない。

a) 不運な条件が遅延なく解消され、チームの残りのスケーターたちが演技の滑走を続け、レフェリーに報告することなく影響のあったスケーターが滑走を再開した場合、レフェリーは中断の時間に応じ、中断の減点(第 843 条第 1 項 n)を適用する

中断時間は、スケーターが演技を止めた瞬間あるいは演技を止めるようレフェリーが指示した瞬間のいずれか早いほうから始まるものとする。

b) 不運な条件を遅延なく解消することができず、チームのキャプテン(または影響を受けているスケーター)が 40 秒以内にレフェリーのもとを訪れた場合、レフェリーは合図によってチームの残りのスケーターたちに滑走を止めるよう命じ、チームが問題を解決し滑走を再開するために最大 3 分間の猶予を与える

チームはチームのキャプテンがレフェリーに報告した時間にできる限り近い部分から滑走を再開する。

追加の猶予時間はキャプテンがレフェリーのもとを訪れた瞬間から始まるものとする。減点については中断全体について 5.0 点の減点(第 843 条第 1 項 n に定められた減点)をレフェリーが与える。

(i) レフェリーの指示によらずチーム全体が滑走をやめる、またはレフェリーがチームに対し滑走を止めるよう合図をしたがチームのキャプテンが 40 秒以内にレフェリーのもとを訪れない、もしくはチームが 3 分間の追加時間内に演技を再開しない場合、そのチームは棄権とみなされる

(ii) ジャッジやテクニカルパネルは、レフェリーが合図でチームの滑走を止めるまで、チームの演技を評価し続けること。チームがどこから演技を再開するか決定され、チームに伝達する

(iii) レフェリーはテクニカルコントローラーとの相談で、中断が要素の前に起きたものか要素中に起きたものかを決定する。要素のどの部分で起きた中断でもチームはその要素の後のランジョンから再開する。ランジョン中に起きた中断の場合、チームはその後から再開し次の要素へと続ける。レフェリーはジャッジとテクニカルパネルに演技の評価をどこから再開するかを伝える。

c) スケーターが負傷し、医療関係者によって、スケーターの氷上からの退避が必要であるとされた場合、かつ/または事故後に整氷が必要な場合はこの 3 分間の猶予は適用されない。

4. 医療行為が必要だと判断した場合、レフェリーは演技を止めなければならない。医療関係者との相談の後、応じる場合、そのスケーターが、スケーターたち自身やチームメイトへ、それ以上のリスクがなく演技を続けるのにふさわしいかどうかを決定する。

レフェリーが判断を下すまでに、最大3分間の精査のための猶予時間が与えられる。そのスケーターが演技を再開することがふさわしくないと判断された場合、補欠のスケーターが、ルール第965条第6項により代わりに滑る。

そのスケーターが再開することがふさわしいと判断された場合、ルール第965条第3項b)が適用される。

a)スケーターが負傷し、医療関係者によって、氷上からスケーターの退避が必要であるとされた場合、かつ／または事故後に整氷が必要な場合はこの3分間の猶予は適用されない。

b)補欠のスケーターがいるが使用しない場合、チームは16人より少ない人数で演技を終えることを選択する。ルール第800条第2項fが適用される

c)チームが最初から16人より少ない人数で競技を開始する場合、ルール第800条第2項fが適用される。負傷や不運な状況が起きた場合、ルール第965条第3項も適用される。

5. スケーター／チームが氷上に乗ってからスタートのコールをされるまでの間に負傷したり、スケーターあるいはスケーターたちの用具に関連した不運な条件によって滑走が妨げられたりして、演技開始までにその不運な条件を解消するための時間が不十分である場合、レフェリーはスタートのコール前に最大3分間の猶予を追加で与えるものとする。この場合、レフェリーは上記3項b)による減点を適用する

6. ショートプログラムまたはフリースケーティングが開始したら、スケーターが交代することは許されない(明らかに目に見える理由でないものの場合 例:怪我／用具の不具合等)しかし、負傷や用具の問題が理由でレフェリーがチームの演技を止めた場合は登録されているチームの補欠が交代する。

レフェリーが演技を止めることなくチームのスケーターが交代した場合、そのチームは失格となる。

7. 不運な条件がスケーターあるいはスケーターの用具に関連して起きたとき、1つのプログラムに認められている再開は一度のみである。不運な条件がスケーターあるいはスケーターの用具に関連して起き、2回目の演技中断が起こった場合、そのチームは棄権したとみなされるものとする。

8. チームが演技を完了できなかった場合、採点は与えられず、チームは棄権となる。

以上